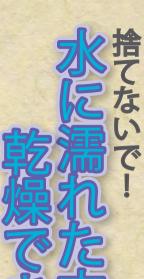
保存版

小規模水損資料用











被災文書

乾燥後

水に濡れた和書・古い本・新聞・記録等の文書資料は乾かせます。これらは、家の大切な 記録であり、地域の歴史を知る重要な手がかり(歴史資料)にもなります。文化財に指定 されている著名なモノだけが歴史資料ではありません。

たとえば、このようなものがあります。

- ●和紙に墨で書いた帳面や書類、和綴じの書籍
- ●明治・大正・昭和の古い書籍・雑誌・新聞・日記やノート
- ●古いふすまや屏風(古文書が下張りに使われている場合があります)
- ●自治会など団体の記録や資料

これらのものは母屋や蔵、あるいはその中の箱やタンス、長持・行李・ロッカーなどに収められています。一見すれば紙くずやゴミのようにみえるものでも、実際には貴重な歴史資料である場合もよくあります。

制作: 歴史資料ネットワーク・情報保存研究会

# 水濡れ文書の吸水乾燥方法

古い記録・古文書など残しておきたいものを捨てないで済むように、家庭でできる簡単な処置方法を紹介します。 ただし、利用できるようになるまで完全に乾かすためには、専門家の技術が必要な場合もあります。

# やってはいけないこと

- 冊子を無理にこじあけない。
- ・天日やアイロン・ドライヤーなどで急激に乾燥させない。 電子レンジでの乾燥も紙を傷める。

#### 応急処置にあたって

自身ですべてを行う必要はなく、電気や水道などのライ フラインの復旧状況が許す範囲内で対応する。

# 作業の前に

- ・エプロンか作業着、あるいは汚れてもいい服装で行う。
- マスクは必ずつける。
- エタノールを扱う際にはゴム手袋を着用する。
- ・常に換気を行う。(可能であれば除湿器や扇風機、空気 清浄機などを活用する)
- 30分に一回は休憩をはさむ。
- ・作業終了後にうがい、手洗いを必ず行う。
- ・指輪、時計、ブレスレット、ネックレス、ヘアピンなど、 文書に損傷を与える危険性のあるものははずして作業する。

# 用意するもの



ペーパータオル(キッ チンペーパー)・エタ ノール (市販の消毒用)・ スプレーボトル(霧吹 き)・新聞紙・マスク※・ 使い捨てゴム手袋(薄 手のもの)・竹ベラや竹 グシ・パレットなど

※人体への安全性を第一に考え、NIOSH(米国労働安全衛生研究所)N95をクリアした 微粒子用マスクがのぞましい。

(その他の注意事項)

- 1) 泥などの汚れ、カビなどにより損傷がひどい場合、泥のカタマリなど、落とせるものは落とす。エタノールを噴霧し、そのままの状態でビニール
- 2) 夏場はカビが生えやすい。防カビのための応急処置で最もよいのは、冷凍・凍結である (家庭用冷蔵庫の冷凍室でも可能)。 この段階で、下記「緊急時の 連絡先」にご相談を。専門処理機関で真空凍結乾燥法などにより乾燥することができる。
- 3) 津波など潮水に浸かった文書の救済、写真やアルバムなど紙以外の被災資料についても、「緊急時の連絡先」を通じ専門家のアドバイスを受けること。
- 4) 当マニュアルは小規模な水損資料を対象にしている。大規模な被災の場合は「緊急時の連絡先」にご相談を。

### | 緊急時の連絡先

- ・歴史資料ネットワーク(神戸)/神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター気付 TEL&FAX 078-803-5565 e-mail s-net@lit.kobe-u.ac.jp
- ・NPO 法人 宮城歴史資料保全ネットワーク / 東北大学・平川新 研究室気付 TEL&FAX 022-795-7693 e-mail office@miyagi-shiryonet.org
- ・ふくしま歴史資料保存ネットワーク / 福島大学 行政政策学類 阿部浩一研究室気付
  - (問合せ窓口:福島県歴史資料館 TEL 024-534-9193 FAX 024-534-9195 e-mail office@history-archives.fks.ed.jp)
- ・山形文化遺産防災ネットワーク e-mail dqb00442@nifty.com
- ・茨城史料ネットワーク / 茨城大学人文学部 高橋修 研究室気付 e-mail osm@mx.ibaraki.ac.jp
- ・新潟歴史資料救済ネットワーク / 新潟大学 人文学部 矢田俊文 研究室気付 TEL&FAX 025-262-6542 e-mail yata@human.niigata-u.ac.jp

### 吸水乾燥の手順

# 

直射日光の当たらない、通気性の良い場所で陰干しをする。 室内では、扇風機などを利用し空気が循環するようにする。 ただし、紙資料に直接風をあてないこと。

# 水濡れがひどい場合(応急処置)

- (1) 新聞紙の上にペーパータオルを敷き、文書をのせる。
- ページが開きそうな箇所を確認し開く。開きにくい場合は 竹ベラを用いる。 (すべてのページを開く必要はない)
- 開いたページにペーパータオルを挿入し、一度冊子を閉じる。 表紙の上にペーパータオルをもう一枚置き、その上から軽く 押さえてペーパータオルに水分を吸収させる。



ペーパータオルを挿入したページを再び開き、ペーパー タオルを抜き取る。

- 新しいペーパータオルを用意し、別のページを開き、②~4を 繰り返す。綴じの部分の水気をとるときは入念に、あらかたの 水分が取れたらスプレーボトルに入れたエタノールを噴霧。
- 全てのページが展開でき、手のひらに水分が移らないように (6)なったら完了。 あとは、風通しの良い場所で文書を陰干しする。

# 袋に入れる。封は特にせず、あとは「緊急時の連絡先」に相談する。